

(2) 生態系の概要

地域の生態系（動植物群）を総合的に把握するため、文献その他の資料により確認された対象事業実施区域及びその周囲の環境類型、植生及び生物種から、生物とその生息環境の関わり、また、生物相互の関係について代表的な植生及び生物種を選定し、食物連鎖模式図として図3.1-37に概要を整理した。

対象事業実施区域及びその周囲には、コナラ群落、アカマツ植林、スギ・ヒノキ・サワラ植林等の樹林地が広く分布しており、その他に伐採跡地群落等の草原・低木林、ヤナギ低木群落等の河辺等、水田雑草群落等の耕作地等を基盤とした生態系が成立しているものと考えられる。ヤマハンノキ群落、コナラ群落、アカマツ植林、伐採跡地群落、ヤナギ低木群落、水田雑草群落等に生育する植物を生産者として、第一次消費者としてはセミ類やバッタ類等の植食性の昆虫類や、ノウサギ、ムササビ等の植食性の哺乳類が、第二次消費者としてはトンボ類、オサムシ類の肉食性昆虫類等が存在する。また、第三次消費者としてはキビタキといった鳥類、シュレーゲルアオガエル等の両生類が、第四次消費者としてはイタチ等の哺乳類、モズ等の鳥類が存在すると考える。さらに、低次消費者を餌とする消費者として、キツネ等の中型哺乳類やイヌワシ、クマタカ、ノスリ等の猛禽類が存在すると考えられる。

河川・池沼の開放水域の生態系では、付着藻類等を生産者として、第一次消費者であるカワニナ等の底生動物が、カジカガエル等のカエル類やウグイ等の魚類に捕食される。さらに、これらを餌とするアオサギ等の鳥類が存在すると考えられる。

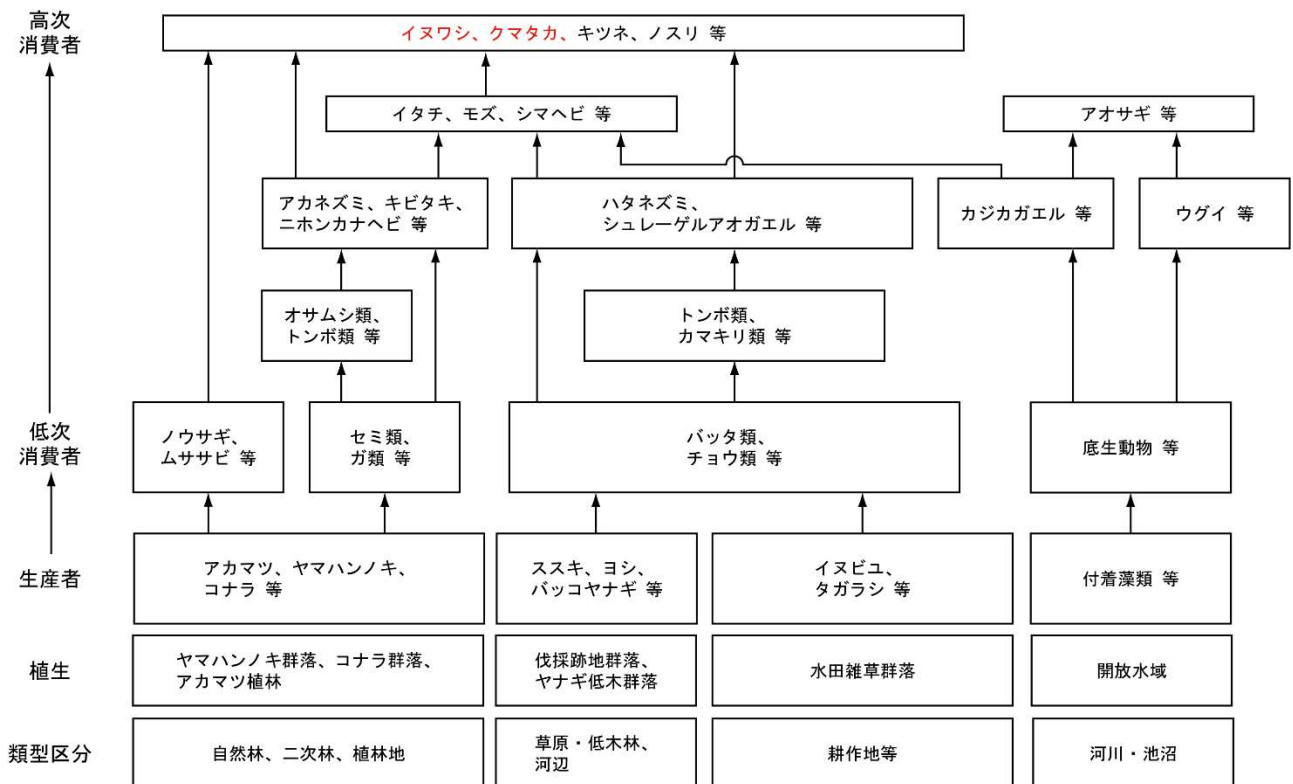


図 3.1-37 食物連鎖模式図